科目名	法学(Law)

学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数
第4学年	機械工学科 制御情報工学科	学修	2 単位	必修	講義	通年 100分/週	90 時間

担 当 教 員	【非常勤】 坂口 浩 （【副担当】高橋正和）

学 習 到 達 目 標

科目の到達目標レベル	1）社会生活の中での法の重要性を理解することができる。 2）法の目的を理解することができる。 3）具体的事件の中で法がどのように適用されるかを理解することができる 4）憲法の基本理念を理解することができる。 5）社会生活一般の基本的な考えやセンスを身につけることができる。 6）社会人として必要な基本的知識や素養を学ぶことができる。

学習・教育目標	(F)③④	JABEE基準1(2)	(a)

関 連 科 目 ， 教 科 書 お よ び 補 助 教 材

関連科目	現代社会、倫理、世界史、日本史
教科書	ノート講義
補助教材等	小六法

達 成 度 評 価 （%）

評価方法 / 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40		20					100
知識の基本的な理解 【知識の基本的な理解】	◎	◎		◎					
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】	○	○		○					
汎用的技能 【　】									
態度・志向性(人間力) 【　】									
総合的な学習経験と創造的思考力 【　】	○	○							

学 習 上 の 留 意 点 お よ び 学 習 上 の 助 言

1）法学においては言葉がいかに定義されているかを理解することが大事である。従って言葉を大事にする。
2）社会生活は、権利・義務関係という法的関係でもあるので、基本的な権利・義務関係を具体的に理解する。
3）法を個別的法適用の事例としてだけでなく、法体系の構造の中で理解する。
4）近代憲法の原理を歴史的背景を含めて理解する。
5）レポートは、参考文献を調べるだけでなく、自分の言葉でまとめる。

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 （予習・復習）
1	法とは何か	法の必要性を理解する。 法と言葉（言葉の大事さ)の関係を理解する。	ノート記載の用語や概念を整理しておく。
2	規範とは何か	社会規範なしに社会が成り立たないことを理解する。	法学に特有の術語や表現を習得する。
3	社会規範の分類	社会規範には宗教規範、慣習規範、道徳規範、法規範があることを理解する。	用語・概念をまとめる。
4	法の目的（1）	法の目的の一つは正義の実現であることを理解する。	法学参考書を図書館から借り出して、該当箇所の問題点を調べる。
5	法の目的（2）	法の目的の第2、第3は法的安定性、公共の福祉であることを理解する。	ノート記載の用語や概念を整理しておく。
6	法の存立基盤	法の存立基盤が文化共同体としての社会であり、政治的共同体であることを理解する。	法学で使われる重要な術語や表現を整理する。
7	法と強制	法の拘束力の根拠と強制の方法を理解する。	判例を調べる。
8	中間試験	答案返却と模範解答	
9	法の構造（1）	法秩序の階層性を理解する。	法規範の哲学的意味を理解できるように、理論展開を整理しておく。
10	法の構造（2）	法規範の重層性、行為規範性と裁判規範性を理解する。	法規範の哲学的意味を理解できるように、理論展開を整理しておく。
11	権利と権利主体	権利の主体が自然人と法人であること、実体法上の権利（私法上の権利と公法上の権利）を理解する。手続法の重要性と手続法上の権利を理解する。	自然人と法人、私法と公法の区別を整理する。
12	法源（1）	裁判基準としての法源、制定法と慣習法の違いを理解する。	制定法と慣習法の特徴をつかんでおく。
13	法源（2）	裁判基準としての法源、学説と条理について理解する。	法源についての理解をまとめておく。
14	法の解釈	法解釈の必要性と重要性、解釈の方法、例として類推解釈と反対解釈について理解する。	法解釈の重要な点をまとめる。
	前期末試験		
15	答案返却と模範解答	答案解説を通して、間違い箇所の理解と答案の書き方を指導する。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 （予習・復習）
16	憲法の分類（1）	憲法には、成文、不文憲法、欽定、民定憲法、条約憲法等の種類があることを理解する。	憲法の各種類を理解し、まとめておく。
17	憲法の分類（2）	憲法の改正手続きの違いから硬性憲法と軟性憲法があることを理解する。	憲法改正に関する諸問題を整理する。
18	憲法の最高法規性	憲法が最高法規であること、その保障手段としての司法審査制について理解する。	司法審査制度の概要をつかんでおく。
19	日本国憲法制定過程（1）	ポツダム宣言とそれに対する日本国政府の対応について理解する。	日本国憲法の成立過程の歴史的経緯を参考書を読んで理解する。
20	日本国憲法制定過程（2）	ポツダム宣言受託後の憲法制定過程を理解する。	日本国憲法の成立過程の歴史的経緯を参考書を読んで理解する。
21	制定過程の問題点（1）	絹布制定過程において、連合国（アメリカ、極東委員会）の影響について考える。	日本国憲法の成立過程の歴史的経緯を参考書を読んで理解する。
22	制定過程の問題点（2）	象徴天皇制と戦争放棄、押し付け憲法説と日本人の自主性について考える。	日本国憲法の成立過程の歴史的経緯を参考書を読んで理解する。
23	中間試験	答案返却と模範解答	
24	憲法の基本原理（1）	国民主権手技、個人の尊厳と基本的人権の近代憲法の基本原理の意味を理解する。	国民主権、人権にかんする近代法の根源をまとめる。
25	憲法の基本原理（2）	民主主義と権力分立という近代憲法の基本原理の意味を理解する。	近代憲法の基本原理を調べて、整理しておく。
26	戦争放棄と国民主権	日本国憲法中における国民主権規定の特徴を理解する。	日本国憲法の特徴をまとめる。
27	象徴天皇制	象徴天皇の特殊な地位について考える。天皇の国事行為を理解する。	天皇に関する規定をまとめる。
28	永久平和主義（1）	日本国憲法中における永久平和主義の特徴を考える。第9条の解釈論争の背景を考える。	平和の問題を憲法から論じてみる。
29	永久平和主義（2）	自衛隊法合憲説、意見説,最高裁の判断を通して解釈論争を考える。	自衛隊の解釈論争の問題点を整理しておく。
	学年末試験		
30	答案返却と模範解答 授業アンケート実施	答案解説を通して、間違い箇所の理解と答案の書き方を指導する。	
総 学 習 時 間 数			90 時間
講　　義			50 時間
自学自習			40 時間